

## 校名：香川大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒762-0031 坂出市文京町1丁目9番4号

電話番号：0877-46-2694

記載日：平成28年5月18日 記載者：倉野 晴代 記載者役職：副園長

本園のおおまかな特色について：

### \*80年の歴史と伝統と発展

昭和8年に香川県女子師範学校に附属幼稚園として併設され、平成28年度で83年目を迎える。以来、幼児期の教育の本質を見出しながら、環境を通して学び、育つ子どもを支えるべく、保育について先輩の諸先生方、大学教員との連携をもとに学びを深めている。

### \*幼児期のかげがえのない生活づくりを考える

本園のめざす幼児像は、「自分の目的をもって自ら環境に働きかけ、意欲的に遊びに取り組み、自分の力で解決していける子ども」である。環境を通して、人、もの・こと(自然・社会事象)に自らかかわっていく意欲、表現力、思考力の基盤、創造性、感性の育ちを見取り、支えていくことを目指している。

### \*附属坂出学園の連携

幼小連携、中学校との交流、特別支援学校との連携を行い、幼児・児童・生徒の育ち・成長を支える教員のつながりにも意識を強くもってかかわり合っている。特に、幼小連携においては、育ちの連続性を見取りながら、個々への細やかな対応、集団としての体験を通しての学びが可能になるように、話し合い、実践を行っている。

### \*研究実践からの地域貢献

県下の幼稚園、保育所、こども園の研修・交流に参加して学びを得たり、本園研究会等で幼児教育の質の向上をめざした取組を発信したりし、地域に生きる研究交流をしている。

### \*ALL絆のPTA

PTA組織が幼・小・中学校が一体となっており、松韻会活動が校種を超えて協力的に行われている。保護者間のつながりも強く、協力しながら、幼児・児童・生徒の育成に携わる意識が強い。

### \*研究と実践をつなぐ

大学合同研究をもとに、保育実践を心理学、教育学の研究分野と結び付けながら、子どもの生活・遊びの探究に努めており、保育実践と発信に生かしてきている。

本園の卒園生の活躍状況について：

- ① 卒園児名簿は残されているが、追跡調査は行っていない。
- ② 連絡進学のため、中学校の同窓会情報等において、卒園児について情報がえられる。

本園勤務経験者が公立学校・教育委員会などへ戻った後の活躍状況について：

- ① 附属坂出学園(幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校)に勤務した教員で構成されている「附属坂出学園松風会」を通して、教員間の交流が図られるようにしている。2年に一度の総会において、名簿作成・配布し、教員の近況報告等を行っている。

- ② 活躍状況は名簿に所属学校園、大学、教育委員会について記載し、把握できるようになっている。
- ③ 本園勤務経験者は、県教育委員会、本大学准教授として、県内外の幼児教育の指導、教員養成にあたっている。また、附属学園の研究において、協力・支援をいただく存在である。

## 魅力のある特色・公立園にも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

### \*県下の幼稚園・保育所・こども園とのつながり\*

#### ①坂出・綾歌幼稚園教育研究会との交流・連携

坂出・綾歌幼稚園教育研究会の一員として、共に保育公開や討議、また保育に関する理論、実技指導等を学ぶ研修に年間に10回程度参加している。保育研究指導資料、人権・同和教育研究、3年保育研修、表現教育、実技研修等、テーマをもとに保育者が協議して学び合い、自身の保育に還元できるように取り組んできている

本園研究会には、坂出・綾歌幼稚園教育研究会のメンバーが多く参会し、共に学ぶ場をもっている。3年保育を昭和43年より実施しており、地域の幼児教育をリードする立場として実践を行い、今日の3年保育、幼児期の教育の質の向上に向けた取組に貢献してきた。

#### ②本園研究会での発信

幼児教育の質の向上をねらいとし、人、もの・こと、自分とのつながりをテーマに幼児理解・援助について、研究成果を発信している。県下の幼稚園・こども園から約110名、保育所から約50名、教育委員



会関係者等約50名、また県外からの参加者も増えている。学生参加も多く、実践的学びの場になっている。公立・私立、また施設、地域性によって教育課程編成に特色がある幼児教育であるが、幼児期にふさわしい教育への願いを核に学び合う場として価値ある場である。

#### ③全附連幼稚園部会研究の発信・地域の研修会指導助言

県下の幼稚園等の研修会において、指導・助言者として参加し、保育についての理解を深める役割を担っている。また、全附連幼稚園教育部会での学びや委託研究成果について、発信することを通して、国の動向、幼児教育の進むべき方向について、情報提供を行っている。

### \*香川大学との合同研究\*

#### ①幼児教育専門の大学教官に保育実践、研究についてのアドバイスを適宜いただき、互いの専門分野を絡み合わせて、合同研究を進めてきている。

平成25年度研究 「遊びの質の高まり」から考える保育づくり

—「第一の学び—第二の学び」間の力動的関係に着目して—

平成26年度研究 「遊びの質の高まり」を支えるアセスメントモデルの検討

平成27年度研究 「遊びの質の高まり」を支えるアセスメントモデルの開発

上のように、日々の保育実践の子ども遊びを通しての学びをどのように保育者として見取り(アセスメント)を行い、援助・環境構成につなぐのかを具体的な事象を意味づけていく実践を積んできた。これらの実践について、毎年開催される大学の合同研究発表会で発信している。

## ②保育学会での発表

上に述べた研究実践について、大学教官と連携し、保育学会にて、ポスター発表を行ってきた。

多くの参会者からの研究視点から、また具体的実践の様子などについて、質問や意見をいただき、交流することで、新たな学びを得て、保育、研究へとつなげていくことができている。保育者にとって、日々行う保育の意味づけが、自身の保育の質の向上を促す支えとなり、意欲化につながっている。学会でえられた成果・課題を検討し、保育実践に生かしたことを本園の研究会でも発信し、県下の幼児教育関係者(教員、教育委員会等)に広めている。

## ③園長の専門性を生かした本物体験を子どもたちへ届ける～豊かな感性と深い関心へ～

香川大学より2年任期で園長として勤務される。25、26年度は、天文学専門の教授であるため、子どもたちに月・星についての話をよくして下さった。27、28年度は声楽専門のオペラ歌手でもある教授であり、幼・小合同で、ミニオペラコンサートを体験した。海外オーケストラとの公演に親子で参加する機会づくりを行う(28年度)。本物体験は、感覚でつかんでいく幼児期の子どもたちにとって、貴重な機会であり、希望と夢の源である。

## \* 附属学園だより・ホームページでの「幼稚園の子どもたちの『今』&えんだより」の発信 \*

附属学園だよりは4校園が松韻会(P)と協力して発行している年3回の研究・活動だよりである。県教育委員会をはじめ、教育関係機関、先輩方への配布をし、附属坂出学園の「今」を知っていただいている。

また、子育て・幼児教育に関心のある方、地域への理解をねらいとして、「幼稚園の子どもたち&えんだより」を発信している。えんだよりには、子どもたちの姿から育ちや子育てに関係した情報を掲載し、親の子育てへの安心につながられるように願っている。



## \* PTAとの連携 \*

本園保護者は、幼児の育ちに関心が高く、保護者同士がつながりをもつことで、さらにその育ちを保障していこうと、取組を考えている。いくつかの取組を紹介する。

### 〇一人一役のクラス活動 ～ともに子育てを～

「子どものためにできること、みんなで協力していこう」という考えのもと、保護者が得意とすることを生かすこと、無理せずに参加できることを考えた一人一役の活動を行っている。ここでは、保護者の関係づくりにもつながっており、活動の中で話や作業を一緒にしていきながら、日頃の子育てなどについて、互いの情報交換の機会となっている。

### 〇父親参加の「夕涼み会」

Pと園が共同で作りあげる夕涼み会において、お父さんの参加しやすい活動をもち、子どもたちへの親しみ、理解につなげてもらっている。26、27年度は、ヨーヨー屋さんを行い、子ども





たちに好評であった。お母さんの活動同様、言葉に交わし合う中でつながりがより広がってきている。父親の交流は、母親の活動の支え、また子育てへの関心の向上・協力にもつながっている。

#### ○『新聞づくり』～親子ぐるみのつながり～

子どもをともに知り合い、かかわりを深めることをねらいとして作られる新聞。子どもの紹介、願い等、工夫した掲示物を担当の保護者が保育時間中に作成する。

#### ○ウェンディの会

子どもの充実した健やかな育ちと保護者の楽しみをねらいとして、毎年テーマを考えて、取り組んでいる。26年度は、「防災時、子どもを守るために」というテーマで防災専門家からの講話とワークショップを開催、27年度は保護者交流も兼ねたガラスアート作りを行った。



#### ○ソフトバレーボールの輪・・・ウェンディ杯・・・

本園のある坂出市スポーツ大会に参加し、保護者同士の交流を深める取組をしている。

毎週1回程度、ソフトバレーボール、スポーツに関心のある方を募り、保育時間中に活動している。練習であるものの、交流が大きな目的で、参加者の輪が広がっている。学級を超えた保護者の交流があり、チームワークのよさがある。27年度は、幼稚園独自のソフトバレーボール大会(ウェンディ杯)を開催し、参加者に大好評であった。

#### ○地域行事への参加

毎年、開催される大橋まつりに附属坂出学園として、連に参加している。幼・小・中学校一体となったパワーが子どもから大人まで広がる活動である。

#### 地域における本園の存在：

○幼児教育について、大学と共同して研究を行い、保育実践について発信、交流する役割を担っている。その成果をもとにした、研究発表会において、県内外の幼稚園・こども園、保育所の先生方の参加(例年約250名程度)があり、地域の「幼児教育の質の向上」を考え、推進していく大切な役目をもっている。

○子育て支援を幼児の側から考える「幼児期ならではの生活の大切さ」を具体的な姿から発信し、子育て支援の追究をしていくことは、意味がある。

○幼稚園教諭の育成の場として、積極的な学びの場の提供を行い、将来の幼児教育を進めていく人材づくりに励んでいる。

#### 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

○学生が自ら学べる機会づくりをもち、幼稚園教諭をめざす学生の参観、保育参加を実習期間外にも行っている。保育者との話し合い、仕事へのビジョンをもつためにも有効であることを学生の教職への関心・意欲の高まりからも感じている。